

令和4年度冬の特集展

お札を彩る さまざまな模様



2022.12.20(火)–2023.2.26(日)

独立行政法人国立印刷局
お札と切手の博物館

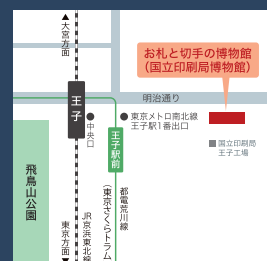
【住所】〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
【電話】03-5390-5194
【URL】<https://www.npb.go.jp/ja/museum/>

【開館時間】9:30~17:00

【休館日】月曜日、年末年始、2/12

【アクセス】
JR京浜東北線「王子駅」(中央口)
下車徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口)
下車徒歩3分
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」
下車徒歩3分

入場無料
Admission Free



令和4年度冬の特集展

お札を彩るさまざまな模様

日々使われるお札の中には、肖像や風景、額面といった模様のほかに、枠模様や地模様など多種多様な模様があります。

日本のお札の模様は、技術の進展などと関わり合いながら、時代ごとにその様相を変えてきました。

特に枠模様や地模様は、お札の主役である肖像などを引き立てるだけでなく、重厚感やその国らしさを表し、精緻に施されることによって偽造を防止する役割を担っています。

本展示では、歴代のお札や海外のお札に見られるこれらの模様を紹介し、偽造防止と装飾性を担いながら多様な変遷を遂げてきた姿を辿ります。



日本銀行兌換銀券 改造5円
明治21(1888)年



肖像の菅原道真公にゆかりのある梅鉢紋と貨幣を象徴する分銅の形を用いた模様

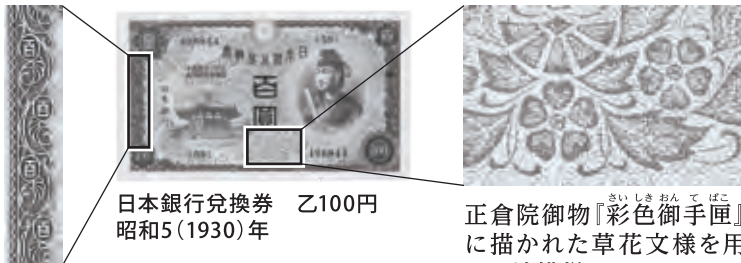


秋田藩札 銀五分
宝暦4(1754)年



分銅をモチーフとした模様

● 日本古来の文様に由来する模様を用いたお札

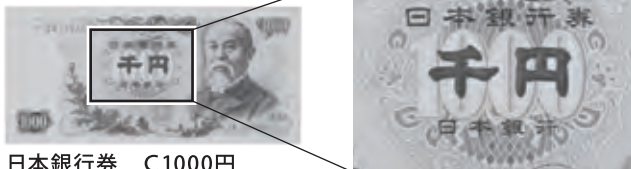


日本銀行兌換券 乙100円
昭和5(1930)年



正倉院御物『彩色御手匣』に描かれた草花文様を用いた地模様

『灌頂幡』(法隆寺伝来)の文様を用いた枠模様

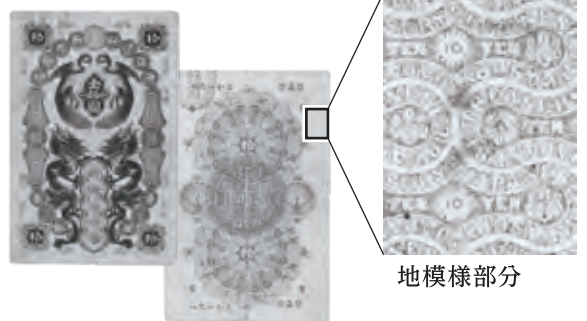


日本銀行券 C1000円
昭和38(1963)年



『橘夫人念持仏』(法隆寺蔵)の光背と宝相華を合わせた模様

● 初めて地模様が採用されたお札



新紙幣 金10円
明治5(1872)年

地模様部分

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために入館に際しては以下のご協力をお願いします。



入館時アンケートの記入
体温の計測



マスクの着用



手指の消毒



対人距離の確保



会話を控える



展示品、展示ケースに
触れない

*当面の間、団体の予約受付を休止します。

独立行政法人国立印刷局



お札と切手の博物館
Banknote and Postage Stamp Museum